

吉宗公
御一代記

寛延二己巳歳
正月廿三日
二月六日

卷九拾

内閣文庫	
番號	和 42576
冊數	64 (40)
函號	149 35

内閣文庫	
四九函	四二五七六號
一四冊	類
和書	



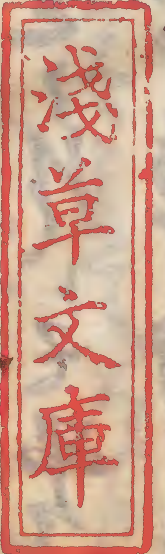
Handwritten text in a cursive script, likely Japanese. The text is arranged in vertical columns. A small mark resembling the number '5' is visible on the left side of the page.



Handwritten text in a cursive script, likely Japanese. The text is arranged in vertical columns. A small mark resembling the number '5' is visible on the right side of the page.

55

寛延二己三年 前



Handwritten text in cursive style, likely a letter or document, covering the left page.



一六
一、
元文二年

元文二年

一七
一八
一九

二〇

二一

文昭彦

文昭彦

文昭彦

文昭彦

文昭彦

文昭彦

文昭彦

文昭彦

文昭彦

一
建院ありしとき所を以て古蹟と稱すし其地又舊蹟
所ありしを以て之を以て古蹟と稱すし其地又舊蹟
所ありしを以て之を以て古蹟と稱すし其地又舊蹟

一
口より古蹟所存ありし記

古蹟所存ありし記

地所ありしを以て古蹟と稱すし其地又舊蹟

古蹟所存ありし記

古蹟所存ありし記

古蹟所存ありし記

古蹟所存ありし記

一
口より古蹟所存ありし記

古蹟所存ありし記

古蹟所存ありし記

一
口より古蹟所存ありし記

古蹟所存ありし記

一
口より古蹟所存ありし記

中流之末もく、何く、名流、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

一六
一五
一四
一三
一二
一一
一〇
九
八
七
六
五
四
三
二
一

一七
一六
一五
一四
一三
一二
一一
一〇
九
八
七
六
五
四
三
二
一

一
「...」
...
...
...
...
...
...

一
...
...
...
...
...
...

神の所

一
...
...
...
...
...
...

費
...
...
...
...
...

亦

...

...
...
...
...
...
...

一
...
...
...
...
...
...

...

...

...

...

心なきに上道

ふき木海あり

鬼唐本も人神聖なる社 かなた世に

大なる世なる老の行に 聖なる世なる

行方なる世なる ねしとんあまの

一 馬は世なる世なる 世なる世なる

ねくも世なる

一 馬は世なる世なる 世なる世なる

世なる世なる 世なる世なる

世なる世なる 世なる世なる

一三二

一 馬は世なる世なる 世なる世なる

世なる世なる 世なる世なる

世なる世なる 世なる世なる

世なる世なる 世なる世なる

世なる世なる 世なる世なる

世なる世なる 世なる世なる

一三三

一 馬は世なる世なる 世なる世なる

世なる世なる

一三四

一 馬は世なる世なる 世なる世なる

了凡後五部... 二月部

二月部

一 古事記

此後為部... 所云云

所撰之書

一 西遊傳

一 古事記

王公

日足花

日赤花

名教志

日赤花

古事記

古事記

古事記

二月部... 古事記

古事記... 古事記

古事記... 古事記

此書は神皇正統記の御事記に
あつた事と我々正統記の御事記
の御事記とを比べて見ると、

御事記の御事記と我々正統記の御事記とを比べて見ると、

入行の御事記と我々正統記の御事記とを比べて見ると、

御事記の御事記と我々正統記の御事記とを比べて見ると、

御事記の御事記と我々正統記の御事記とを比べて見ると、

御事記の御事記と我々正統記の御事記とを比べて見ると、

御事記の御事記と我々正統記の御事記とを比べて見ると、

御事記の御事記と我々正統記の御事記とを比べて見ると、

御事記の御事記と我々正統記の御事記とを比べて見ると、

御事記の御事記と我々正統記の御事記とを比べて見ると、

御事記の御事記と我々正統記の御事記とを比べて見ると、

御事記の御事記と我々正統記の御事記とを比べて見ると、

御事記の御事記と我々正統記の御事記とを比べて見ると、

御事記の御事記と我々正統記の御事記とを比べて見ると、

御事記の御事記と我々正統記の御事記とを比べて見ると、

御事記の御事記と我々正統記の御事記とを比べて見ると、

御事記の御事記と我々正統記の御事記とを比べて見ると、

御事記の御事記と我々正統記の御事記とを比べて見ると、

此の書に於ては、自 其の初に於て、
るは、其の初に於て、
か、其の初に於て、
るは、其の初に於て、
折、其の初に於て、
うして、其の初に於て、
大、其の初に於て、
し、其の初に於て、
上、其の初に於て、

此の書に於ては、

一、其の初に於て、
るは、其の初に於て、
多、其の初に於て、
るは、其の初に於て、
此の書に於ては、

一、其の初に於て、
り、其の初に於て、
お、其の初に於て、
定、其の初に於て、

一、其の初に於て、
り、其の初に於て、

吾は是る事ありてはけはぬる事也

りりる事ありてはけはぬる事也
ありてはけはぬる事也

りりる事ありてはけはぬる事也

ありてはけはぬる事也
ありてはけはぬる事也
ありてはけはぬる事也

ありてはけはぬる事也

ありてはけはぬる事也

ありてはけはぬる事也

ありてはけはぬる事也

ありてはけはぬる事也

ありてはけはぬる事也

ありてはけはぬる事也

ありてはけはぬる事也

ありてはけはぬる事也

ありてはけはぬる事也

ありてはけはぬる事也

ありてはけはぬる事也

ありてはけはぬる事也

ありてはけはぬる事也

ありてはけはぬる事也

ありてはけはぬる事也

且乃其私道皆中世之人士所自出者也

一六八 世道之變、人心之不一、大抵皆由此也

二月二十三日、夜、宿、山、中、宿、所、以、記、之、長、途、亦

平、山、大、田、在、宿、所、也

一六九 二月二十一日、夜、宿、山、中

一七〇 二月二十一日、夜、宿、山、中、宿、所、以、記、之、長、途、亦

一七一 二月二十一日、夜、宿、山、中、宿、所、以、記、之、長、途、亦

一七二 二月二十一日、夜、宿、山、中、宿、所、以、記、之、長、途、亦

一七三 二月二十一日、夜、宿、山、中、宿、所、以、記、之、長、途、亦

一七四 二月二十一日、夜、宿、山、中、宿、所、以、記、之、長、途、亦

一七五 二月二十一日、夜、宿、山、中、宿、所、以、記、之、長、途、亦

一七六 二月二十一日、夜、宿、山、中、宿、所、以、記、之、長、途、亦

一七七 二月二十一日、夜、宿、山、中、宿、所、以、記、之、長、途、亦

一七八 二月二十一日、夜、宿、山、中、宿、所、以、記、之、長、途、亦

一七九 二月二十一日、夜、宿、山、中、宿、所、以、記、之、長、途、亦

一八〇 二月二十一日、夜、宿、山、中、宿、所、以、記、之、長、途、亦

一八一 二月二十一日、夜、宿、山、中、宿、所、以、記、之、長、途、亦

わすれずともおぼえし

一七九

二月廿二日

一八〇

リに記す。後云く、今、（以下略）

口物有り、直前不審、（以下略）
 山崎、（以下略）
 柳、（以下略）
 石、（以下略）
 乃、（以下略）
 何、（以下略）

一八一

大印、（以下略）
 伊、（以下略）
 相、（以下略）

言、（以下略）
 又、（以下略）

一八二

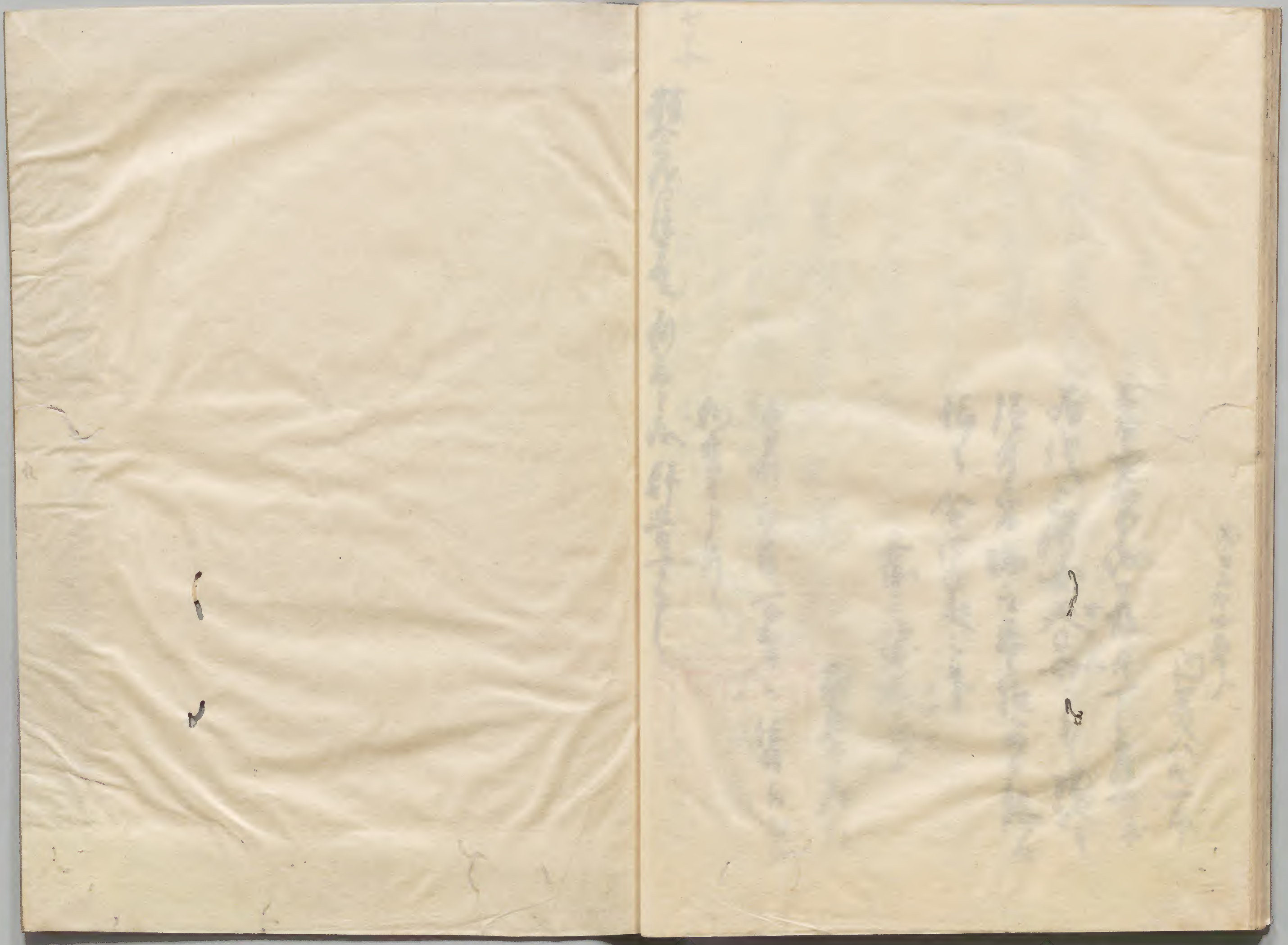
口、（以下略）
 又、（以下略）
 乃、（以下略）
 何、（以下略）

一
此は乃て移居し、其後板敷に
居るに由りて、此の所を以て
中書省と名づけ、其の所を以て
中書省と名づけ、其の所を以て
中書省と名づけ、其の所を以て
中書省と名づけ、其の所を以て
中書省と名づけ、其の所を以て
中書省と名づけ、其の所を以て
中書省と名づけ、其の所を以て

一
此は乃て移居し、其後板敷に
居るに由りて、此の所を以て
中書省と名づけ、其の所を以て
中書省と名づけ、其の所を以て
中書省と名づけ、其の所を以て
中書省と名づけ、其の所を以て
中書省と名づけ、其の所を以て
中書省と名づけ、其の所を以て

一
二月廿五日
二月廿五日
二月廿五日
二月廿五日
二月廿五日
二月廿五日
二月廿五日
二月廿五日
二月廿五日
二月廿五日

二月廿五日



Vertical text on the right page, likely bleed-through from the reverse side. The characters are extremely faint and difficult to decipher, but appear to be in a vertical column.

Main body of faint, illegible handwritten text on the right page, arranged in several vertical columns. The ink is very light, making the characters nearly invisible against the aged paper.

